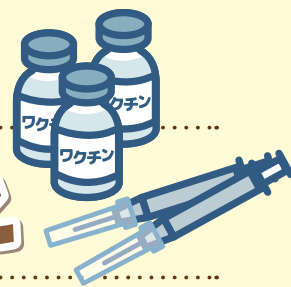


5～11歳の 子どもを対象とした 新型コロナワクチン



現在、国内における小児（5～11歳）の新型コロナウイルス感染症は、中等症や重症例の割合は少ないものの、感染者全体に占める小児の割合が増えていることが報告されています。

現時点において、特に重症化リスクの高い基礎疾患を有する5～11歳の小児に対して接種の機会を提供することが望ましいなどと考えられることから、厚生労働省の審議会で議論された結果、予防接種法に基づく臨時接種に位置づけられ、小児を対象としたワクチン接種が可能となりました。

保護者の皆さまには、ワクチン接種の有効性と安全性について、よく理解していただいた上で、

接種の可否を判断していただきますようお願いいたします。

今回、奈良県医師会のご協力をいただき、このリーフレットを作成しましたので、ご活用いただければと思います。

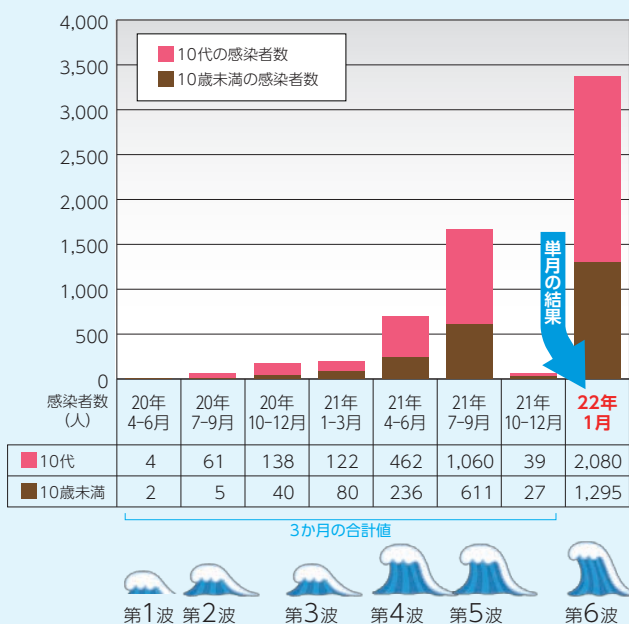


図1 奈良県の10代以下の新型コロナ感染者数

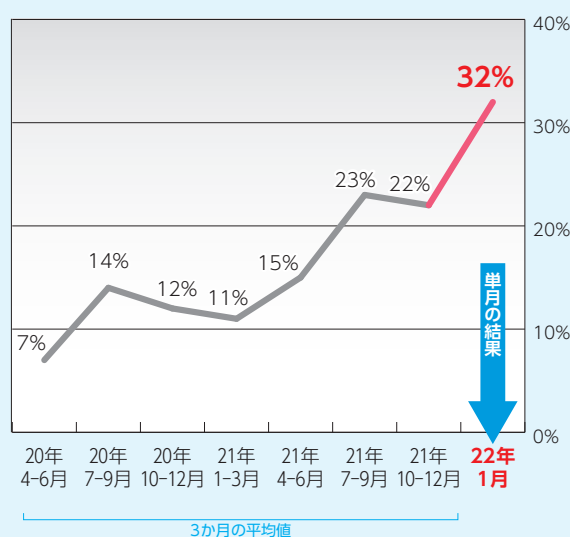


図2 全感染者に占める10代以下の割合(%)

2022年1月31日の奈良県オープンデータを基に県で作成

参考文献



厚生労働省
厚生科学審議会(予防接種・ワクチン分科会)
URL https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_127713.html



日本小児科学会
5～11歳小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方
URL http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=404



奈良県

監修／奈良県医師会

2022年2月

令和4年2月に、5～11歳までの子どもに新型コロナワクチンを接種することが可能となりました。このワクチンは、ファイザー社ワクチンで、12歳以上のものとは別の製剤で、有効成分の量は3分の1となっており、3週間の間隔を空けて2回接種することになっています。

新型コロナワクチンの効果

1 発症予防効果が期待されています。

オミクロン株が出現する前のデータです。米国における小児(5～11歳)の新型コロナワクチンの有効性の研究では、5～11歳のワクチンを2回接種することにより、16～25歳と同等の免疫(中和抗体価)を得ることができるとされています。(表1)

同じ報告では、ワクチンの接種により発症予防効果は、90.7%^{※1}となっています。

参考文献



※1 厚生労働省

「ファイザー社の新型コロナワクチンについて」
5～11歳く海外における臨床試験>

URL https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_pfizer.html

表1 ファイザー社ワクチン接種後の年齢別中和抗体価

年齢	5～11歳 (C4591007試験)	16～25歳 (C4591001試験)
販売名	コミナティ筋注 5～11歳用	コミナティ筋注
有効成分 (接種量)	10μg (0.2mL/回)	30μg (0.3mL/回)
対象数(N値)	264	253
中和抗体価	1197.6	1146.5

オミクロン株が出現する前のデータです。

米国ニューヨーク州における研究では、2021年12月13～26日の5～11歳の感染予防効果は、69～73%^{※2}となっています。

参考文献



※2 New York State Department of Health

Special Report: Pediatric COVID-19 update: January 4, 2022

URL https://health.ny.gov/press/releases/2022/docs/pediatric_covid-19_hospitalization_report.pdf

2 重症化予防効果が期待されています。

小児COVID-19合同学会ワーキンググループが発表した資料では、「小児も、成人で指摘されているように肥満・呼吸器疾患・悪性腫瘍・神経疾患(重症心身障害児やダウン症候群などを含む)・心疾患・免疫不全、さらに早産児については、(COVID-19が)重症化するリスクがある」としており、こうした基礎疾患がある子どもについては、ワクチン接種により重症化予防が期待されているところです。

(公財)日本小児科学会

▶ 5歳から11歳の接種について、令和4年1月19日に見解を公表しています。

概要

- 子どもをCOVID-19から守るためには、周囲の成人(子どもに関わる業務従事者等)への新型コロナワクチン接種が重要です。
- 基礎疾患のある子どもへのワクチン接種により、COVID-19の重症化を防ぐことが期待されます。
- 5～11歳の健康な子どもへのワクチン接種は、12歳以上の健康な子どもへのワクチン接種と同様に意義があると考えています。メリット(発症予防等)とデメリット(副反応等)を本人と養育者が十分理解し、接種前・中・後にきめ細やかな対応が必要です。

▶ 2022年2月14日付けで新型コロナウイルス感染症の重症化リスクの高い疾患の一覧を追記しています。



日本小児科学会

新型コロナウイルスワクチン接種に関する、小児の基礎疾患の考え方および接種にあたり考慮すべき小児の基礎疾患等

URL http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=409

副反応について

副反応の頻度は、12～15歳よりも少なく、多くは軽症です。

米国では、令和3年11月3日～12月19日までの間に、5～11歳で、合計870万回の接種が行われており、その結果について、報告されています。

① VAERS (CDC^{※1}とFDA^{※2}が共同管理する受動的ワクチン安全監視システムであるワクチン有害事象報告システム)

接種後の副反応疑いとして、4,249件の有害事象が報告されており、うち、重篤なものは100件(2.4%)となっています。重篤事例の年齢の中央値は9歳で、61件(61%)が男子です。主な内訳は、発熱29件(29%)、嘔吐21件(21%)、心筋炎の予備群(トロポニンの上昇)15件(15%)となっています。この心筋炎の予備群15例を検証したところ、症例定義を満たす事例は11件で、報告時点で、すべて回復しています。

また、ワクチン接種後の死亡事例が2件報告されています。5歳と6歳の2人の女子で、どちらも複雑な既往歴を持っており、予防接種前は脆弱な健康状態でありました。どちらも死亡とワクチン接種の因果関係は審査中です。

※1 CDC：米国疾病対策センター

※2 FDA：米国食品医薬品局

(報告日：2021年12月31日)

② V-SAFE報告 (V-SAFE：CDCのスマートフォンアプリを利用したモニタリングプログラム)

V-SAFEに、ファイザー社ワクチンを接種した5～11歳の42,504人の子どもが登録されています。このうち、2回目接種まで記録されているのは、29,899人(70.3%)となっています。

5～11歳のV-SAFE登録者の2回目接種後の局所的反応(57.5%)及び全身反応(40.9%)は、12歳～15歳の小児及び青年の反応(局所：62.4%、全身：63.4%)より報告頻度は低くなっています。

また、V-SAFE登録上では、14人が接種後に入院したと報告されていますが、入院がワクチン接種の結果であるかどうかは判別されていません。更に、1回目接種後の5.1%が、翌日に通常の活動が営めない(2回目接種後は7.4%)と報告されているほか、医療ケアが必要だった子どもは約1%であったと報告されています。図3に詳細を示しています。

(報告日：2021年12月31日)

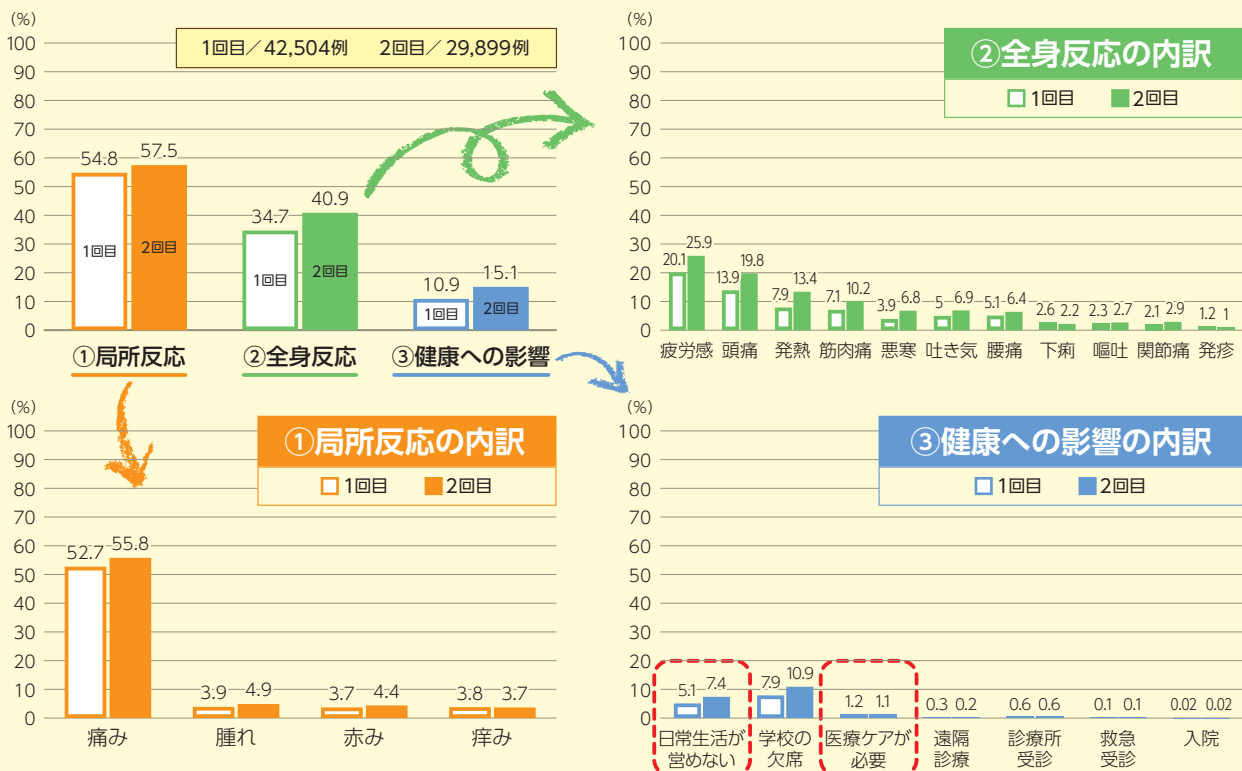


図3 米国における5～11歳のファイザー社ワクチン後の有害事象の発生頻度

参考文献



COVID-19 Vaccine Safety in Children Aged 5–11 Years — United States, November 3–December 19, 2021

URL <https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/70/wr/pdfs/mm705152a1-H.pdf>

奈良県の取り組みについて

奈良県では、5～11歳のワクチン接種後の副反応に対する体制を構築しています。

- ワクチン接種後の副反応を疑う症状に対する相談窓口として、奈良県新型コロナワクチン副反応コールセンターを設置しています(24時間・365日対応)。
- 医療機関への受診を希望する場合には、接種した医療機関やかかりつけの医療機関等を受診してください。休日や夜間の場合は、休日夜間応急診療所での受診も可能です。休日夜間応急診療所で診察された結果、さらに高度な医療等が必要な場合は、小児科を有する病院を紹介されます。
- 万が一、症状が激しく、急を要する場合には、119番通報をしてください。

帰宅後の体調に不安を感じたら

日中の診察時間内

接種医療機関またはかかりつけの医療機関等

休日及び夜間

休日夜間応急診療所

▶ 休日夜間応急診療所 一覧 <https://www.pref.nara.jp/secure/23627/kyukyukokujij.pdf>

または

奈良県新型コロナワクチン副反応コールセンター



<https://www.pref.nara.jp/58099.htm>

- 看護師等が対応します。
- 相談内容に応じて、受診可能な医療機関等を紹介します。24時間、365日対応します。(土日祝も含めて対応)
- 聴覚に障害のある方等、電話相談が難しい方に向け、FAX・メール等でも相談に応じます。

TEL : 0120-919-003 FAX : 0742-36-6105 メール : nara-vaccine@bsec.jp

- 多言語対応をしています。(対応言語：全20言語)



—— ワクチンについての疑問や不安があるときはどうすればよいですか？

かかりつけ医などにご相談ください。基礎疾患があるお子さんについては、定期受診時などによくご相談ください。

—— アレルギーをおこしやすいワクチンの成分はありますか？

ポリエチレングリコール(マクロゴールとも呼ばれています)の成分を含んでいます。化粧品、シャンプー、歯磨き粉、一部の医薬品に使用されていますので、これらにアレルギーのある場合は、予診の際、医師に報告してください。

—— ワクチン接種や接種後の副反応で学校を休む場合は、欠席になりますか？

学校(園)長の判断により、出席停止扱いなど、欠席とならない場合があります。学校(園)等にご相談ください。

—— 他のワクチン接種との間隔は何日必要ですか？

新型コロナワクチン接種前後に他の予防接種を行う場合は、原則として13日以上の間隔をおいて、14日目以降に予防接種をしてください。

—— 接種後、発熱したらどうすればよいですか？

市販の解熱剤(熱や痛みをとる薬)を使うこともできます。発熱が2日以上続くようなら、医療機関の医師に相談してください。水分摂取ができない場合は、早めに医療機関を受診してください。奈良県新型コロナワクチン副反応コールセンターは24時間対応ですのでご利用ください。

—— 1回目を接種した後に12歳になった場合、2回目はどうしたらよいですか？

1回目と同じ小児(5～11歳)の新型コロナワクチンを使用して接種します。



お知らせ



厚生労働省

新型コロナワクチンQ&A 小児接種(5～11歳)

URL <https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/child/>



奈良県

5～11歳の方への新型コロナワクチン接種について

URL <https://www.pref.nara.jp/59725.htm>